

# みえ県連協ニュース

三重県学童保育連絡協議会  
津市下弁財町津興 1350  
専用携帯 080-2651-5711  
Eメール: miegakudou@outlook.jp

2024年度 No.2 (2024年10月号)

Eメール: miegakudou@outlook.jp

## 第一回拡大役員会を実施いたしました。

9月24日、Zoom オンラインにて、2024年度第1回拡大役員会を開催しました。各地域から状況報告を行い、活動などについて意見交換を行いました。

### 【地域からの報告】

四日市市	市連協総会を対面で実施。内容は、令和6年度活動予定と意見交換 意見交換では、[学童の昼食提供支援について]、[開所時間の考え方について]、 [夏休みの計画について]など、運営面や現場の内容に即した意見交換が行われた。 今後の予定としては、12月には四日市市の学童保育係との懇談会が、2月には市議会・ 県議会議員との意見交換会がある。
鈴鹿市	6月18日(火)に役員会を実施。役員の自己紹介、役職確認を行う。 5月の子ども・子育て会議についての報告。 会議では、令和5年度の報告と同時に、待機児童について・収容が60人を超える学童 が2か所あるが安心安全な施設と言えるか?などが話し合われた。 7月の会議でも、学童の利用者の増加に伴い、来年度も施設数が増える状況に際し、 再度待機問題が議題にあがる。 子ども条例の骨子案を検討。令和7年度からの施行を目指す。
亀山市	亀山市の学童保育数・及び在籍児童数の報告、6月以降の主な活動内容・市内状況に ついての報告、今後の活動についての報告があった。 有資格者の確保であったり、指導員の確保が難しい現状が浮き彫りとなっていた。 指導員研修では、救命講習や遊びの実践を行った。今後の研修では、初任者研修や 全体会としてほいく誌から学ぶ研修、市と共催で市研修も予定している。

津市	7月と9月に定例理事会を開催。役員会・関係団体や各実行委員会からの報告を行い、 理事をグループにわけた情報交換会も行った。 7月14日には、津市主催の「運営者会議」に参加。[ひとり親家庭支援額の引き上げ]、 [開所状況報告書]の説明の後、9グループの分科会を設け進行を担当した。 10月には、津市学童保育研究集会(講師:福武利さん)や学童保育就職フェアの開催 11月には、市長懇談・学童っ子まつり・ドッジボール交流会を予定している。
松阪市	7月10日(水)に[松阪市放課後児童支援員等交流会]を実施。14クラブ24名の参加 主な内容は、災害時の対応についての講義と情報交換を行った。 8月21日(水)に[放課後児童クラブ運営説明会]を実施。内容は今後の運営方針に ついて。運営体制の変更を予定している。(令和8年4月から)
熊野市	子どもたちに向けて様々な体験活動(ソフトボール・修繕作業・農業系・文化芸術)を 企画したり、各事業所毎に1泊2日のキャンプを実施。今年度は熊の出没が増加してい て、キャンプ場にて熊対策を行う。劇団うりんこの作品を鑑賞、性について学ぶ機会を 設ける。8月には川遊び・合同保育・お寺の修行体験・稲刈りなどを実施。 高学年は学年に応じた取り組みを、事前に子どもたちと会議をして行った。 今後は、ソフトボール体験や新米を食す体験、高学年はサイクリングや秋まつりを予定 令和7年度4月オープンに向けて金山事業所を新設予定。

### 〈県連協からの報告〉

#### 【全国の動き】

#### ○概算要求について

令和7年度概算要求の概要が発表されました。新たに追加された項目は2点ありました。

1点目は「放課後児童クラブ利用手続き等に関わるDX推進実証事業(仮称)」。  
これは、放課後児童クラブの利用手続きや運営に係るオンライン化、ICT化を推進し、利用調整  
の円滑化による待機児童対策、利用者の利便性向上、業務負担の軽減を見込み、その実証に係る経  
費を補助するといったものであります。

2点目は「放課後児童クラブ等におけるICT化推進事業」。  
こちらは職員の業務負担の軽減を図ったもので、業務のICT化を推進するとともに、オンライン  
会議やオンライン研修を行うために必要な経費、通訳サービス等の使用に必要な経費を支援する  
ことにより、利用環境を整備する目的です。どちらの要求も現場で働く支援員や利用する保護者、  
運営に関わる全ての人に関わるものなので、予算として認められることを切に願います。

○『日本の学童ほいく』関係の報告とお願い

■2024年7月上旬、次年度特集企画会議の開催。地域連協の方々、モニターの方々からのアンケートをもとに、編集委員・役員・職員で検討し特集テーマを以下の通りに決定しました。

2025年		10月号	学童保育連絡協議会
4月号	学童保育とは	11月号	子どもの権利を学ぶ
5月号	保護者会・父母会	12月号	保護者と指導員の伝えあい
6月号	子どもの気持ちに気付く	2026年	
7月号	学童保育の行事	1月号	発達障害のある子どもの保育
8月号	子どもと遊び	2月号	全国学童保育研究集会
9月号	学童保育の施設	3月号	指導員の仕事

■2024年10月号から松田洋介先生（大東文化大学教授）の「講座」がスタートします。

連載タイトルは「子ども・若者たちの『いま』—共に生きる大人が大切にしたいこと」です。教育社会学を専門とし、地域や学校に足を運んで子どもや若者、保護者や教師、学童保育指導員に話を聞きながら、現代の教育問題について考えてきた先生が、講座を通して研究成果や先生自身が大学で出会う若者たちから教えてもらったこと、教師や学童保育指導員の方々と議論をしてきたことを踏まえ、現代の子ども・若者をどう理解するかを考える講座となります。

（本誌2024年10月号掲載の講座より抜粋したものを一部改変）

■本誌カラーページについて

2025年2月号では、「全国研」特集を予定しています。今年もオンラインの分科会の配信会場の様子や、可能な範囲での参加者の様子などを誌面の中で写真を使用したいと考えています。写真の撮影・提供にご協力をお願いいたします。

■実践ノートへの「実践記録」をぜひ、お送りください。

指導員さんが執筆する「実践ノート」のコーナーに掲載する「実践記録」探しに、大変苦慮しています。各自、書き溜めているもの、地域の学習会で使用したもの、実践記録集などがありましたら、ぜひ編集部に送ってください。

■「子どものひろば」「どうしてどうして?」「クイズ」「読者のひろば」へ、作文やイラスト、質問をお寄せください。

各コーナーで、子どもたちからの投稿を募集しています。

【県内の動き】

○県子ども子育て会議について

■放課後児童クラブと放課後子ども教室の実施状況

放課後児童クラブまたは放課後子ども教室を設置する小学校区の割合は、高い割合で推移。

▽令和5年度 97.4%

・放課後児童クラブ 329校区、放課後子ども教室 148校区

・どちらかが利用可能な校区 331校区 / 全小学校区 340校区 = 97.4%

▽令和6年度 97.4%

・放課後児童クラブ 329校区、放課後子ども教室 149校区

・どちらかが利用可能な校区 331校区 / 全小学校区 340校区 = 97.4%

■放課後児童クラブの待機児童数（令和5年5月1日現在）

放課後児童クラブの令和5年5月1日現在の待機児童数は、前年同日現在より26人増加。令和4年度から比べ、待機児童が0人になった市がある一方で、待機児童が発生・増加した市町があり、依然として複数の市町で待機児童が発生しています。

施設の新設や改修等により、一部では利用定員を増やしているものの、利用希望者が増加し、現状の定員数では受け入れることが出来なかったことや、放課後児童支援員の不足から、受け入れ枠を拡大できなかったことが考えられます。

市町名	令和4年度	令和5年度	増減
津市	22	32	10
四日市市	4	0	▲4
伊勢市	0	2	2
鈴鹿市	0	8	8
名張市	8	4	▲4
伊賀市	17	32	15
御浜町	1	0	▲1
合計	52	78	26

（令和6年5月1日現在については調査中です。）

■ひとり親家庭の放課後児童クラブ利用料支援の状況

ひとり親家庭の児童の放課後児童クラブ利用料を減免する放課後児童クラブに助成する市町に対し、1児童あたり月額3000円を上限に補助を実施しています（県1/2補助）。支援強化のため、令和6年度から上限額を1児童あたり月額6000円に倍増しています。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
市町数	25市町	25市町	26市町	27市町
クラブ数	349か所	363か所	379か所	384か所
対象児童数 (年間延べ)	15048人	15154人	14958人	14781人
対象児童数 (月平均)	1254人	1262人	1246人	1231人

(※放課後児童クラブ活動事業費補助金実績報告より)

#### ■地域子ども・子育て支援事業（※市町が主体的に行っていくもの）

- ・子育て世帯訪問支援事業  
要支援児童、要保護児童及びその保護者等の居宅を訪問し、子育てに関する情報の提供  
家事・養育に関する援助等を行う事業
- ・児童育成支援拠点事業  
養育環境等の課題（虐待リスクが高い、不登校等）を抱える主に学齢期の児童の居場所と  
なる拠点を開設し、児童に生活の場を与えるとともに児童や保護者への相談等を行う事業
- ・親子関係形成支援事業  
要支援児童・要保護児童及びその保護者等の親子間の適切な関係性の構築を目的とし、子  
どもの発達状況等に応じた支援を行う事業

#### 【今年度の取り組み】

#### ■第59回全国学童保育研究集会 11/16～17（現地岡山とオンライン併用）

- ・2日目 分科会について  
第3分科会②「市区町村の連絡協議会づくりと活性化」  
津市連協別府会長がレポート報告をします。  
第21分科会「子どもの発達と学力」  
三重県連協藤田会長が世話人を担当します。

全国的な研修には、いろんな立場の方が参加されて、学童保育のことを考える1年に1回の  
機会ですので、学びの有意義な時間になるようにしたいです。

なお、オープニングの歓迎行事につきましては、オンデマンド配信はございません！  
ぜひ、当日会場（Zoom画面）をご覧ください。

#### ■県との話し合いについて

三重県の担当課との直接要望する機会です。

内容については、10月の役員会で検討します。

日程は11月中旬を予定しています。

過去のように地域の皆さんも参加できるように調整しています。

#### ■観劇会について ※今年は人形劇です。

今年も、南立誠小学校（津市）の体育館をお借りして開催します。

演目：「オズのまほうつかい（むすび座）」（午前の部・午後の部の2部公演）

日時：2024年12月26日（木曜日）

	午前の部	午後の部
入場時間	10:15	13:15
公演開始	10:30	13:30
上映時間	1時間40分（一幕45分、休憩10分、二幕45分）	
公演終了	12:10	15:10



料金：児童1人につき1,200円

※引率者の費用について

- ・県連協加盟クラブ 無料
- ・非加盟クラブ 有料

※申し込みについては、追って  
詳細をお知らせします。参加に  
ついて是非ご検討ください。

#### ■三重県学童保育研究集会について

例年通り、2月開催にむけて準備中です。

決まり次第、ご案内します。

午前中、基調報告、記念講演。午後から分科会を予定しています。

#### 【今後の予定】

- 10月15日（火） 役員会③（オンライン） 19:30～
- 29日（火） 役員会④（オンライン） 19:30～
- 11月 中旬 県との話し合い
- 16・17日 全国学童保育研究集会（岡山県）
- 12月 上旬 第2回拡大役員会（オンライン） 19:30～
- 26日（木） 観劇会「オズのまほうつかい」（県連協主催）
- 2月 三重県学童保育研究集会

8月号

掲載者紹介

★こどもランド

P42 子どものひろば 作文「春のつどい」 中瀬 笑里(津市育生地区くすみ会 5年)

★読者からの投稿

P32 「私が一歩、踏み出せたとき」 下井 とも子(三重県津市 指導員)

読みどころ

★特集 子どものけんか・ことば・気持ち

保育の現場では日常的に起こるケンカ。指導員としては「ケンカ」と聞くと止めてしまいがちになってしまいますが、本特集では「けんかは周りの大人の適切な対応や配慮があれば、社会性の発達にとって貴重な学びの場」としています。また、指導員の実践振り返りにおいては、なりたての頃は一方的な関わりが多かったが、経験を重ねる中で双方の気持ちを聞くことを心掛けるようになったというように「気付き」も学ぶことが出来ました。

★協議会だより

こども家庭庁・文科省との懇談と要請行動を行いました。

- ・学童保育の量的拡大、質の向上が図られるよう、国として十分な財政措置をはじめ、対策をすすめてください
- ・学童保育指導員の処遇の改善、保育内容の向上が図られるよう必要な措置を講じてください
- ・学童保育指導員の項的責任による全国一律の資格制度を検討してください。「放課後児童支援員認定資格研修」は「全国的な一定水準の質」がはかられるようにしてください

9月号

掲載者紹介

★こどもランド

P41 子どものひろば イラスト 村田 真宙(鈴鹿市 愛宕小学校区放課後児童クラブあおぞら 3年)

★読者からの投稿 私のオススメ!冷たい麺料理レシピ♪

P59 「なんでもOK♪ 冷やし中華風そうめん」 エバート幸子(桑名市 保護者OB)

★仕事・職場のいま

P63~65 「仕事・子育て 心を込めて……」 田中 裕子(桑名市 ひまわり学童クラブ 保護者)

★読者のひろば

P66 「読んでみます♪」 エバート幸子(桑名市 保護者OB)

読みどころ

★特集 学童保育の生活—子どもの人数を考える

先述した記事にもある「待機児童問題」。それと同時に考えないといけない問題として、今回特集にも挙がっている「子どもの適正人数」があると思います。本特集では、「安心してのびのび過ごせる環境について」や、指導員の経験をふり振り返り「集団の規模」について思うこと、その集団の規模の上限が守られた学童保育は「子どもの権利」であることが記されています。これからも需要は伸びる一方で、場所の確保や指導員の確保が難しい現状で予想される「望まない大規模化」に向けて指導員として何が出来るのか?保護者役員として何が出来るのか?を考えるいいきっかけになるのではないかと思います。

★協議会だより

夏季休業中のみ受け入れ・開所をめぐって  
「熱中症特別警戒アラート」の運用とその影響について

10月号

掲載者紹介

★裏表紙

作文 山本たける(4年)・山本さくや(6年)(津市 北立誠地区たつの子会)

読みどころ

★特集 子ども・保護者と共に歩む学童保育

昔と今では、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わってきています。放課後に友だちと暗くなるまで遊ぶ…そんなことが当たり前だったころに比べ、今では学校の宿題や習い事に追われ社会人より多忙な子どもたちが散見されます。それだけでなく、「生きづらさを抱えた子ども」も増えてきたのではないのでしょうか?本特集では、子どもの生きづらさに焦点をあて、生きづらさの態様や現状、その問題を抱えた子どもたちとどう関わるかを考え、関係機関や多職種連携を進め、「地域の仲間」とつながりあって困難を抱える子どもを支援していこうということが記されています。また、困難を抱えているのが子どもだけとは限らず、保護者もまた困難を抱えているかもしれません。P16 から記載されている「保護者への寄り添い」などをともに、支えていけたらいいですね。

★協議会だより

「教育・保育施設等における事故報告集計」が公表されました

日本の学童ほいく誌は、唯一の学童保育専門誌です。全国の学童様子や最新の情報、子どもたちの作品や、保護者の声、指導員の想いなど三重県内からもたくさん投稿されています。ぜひ、みなさんも手にとって購読しませんか?三重県連協では、購読の窓口を設けています。1冊から注文できますので、ご連絡ください。 [miegakudou@outlook.jp](mailto:miegakudou@outlook.jp)